

SSC 埼玉県障害者社会参加 推進 センターだより

令和7年12月30日 147号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

メールアドレス

ssk080321@bz03.plala.or.jp

HPアドレス

http://saitama-shokyo.org/info/

発行

NPO法人埼玉障害者センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原3-10-1

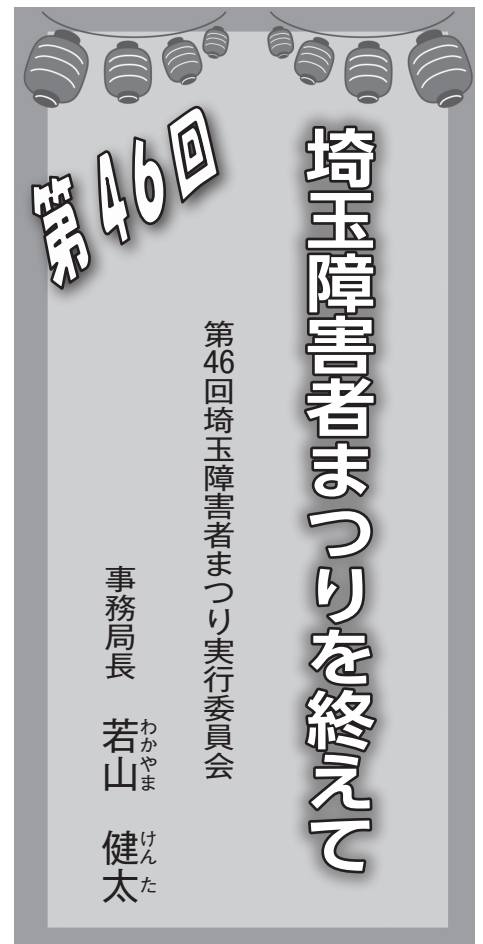
頒価

一部100円(会費に含まれます)

発行日

10日・20日・30日

10月5日(日) 障害者交流センターにて、「第46回埼玉障害者まつり」が開催されました。今年のテーマは、「みんなと一緒に叶えよう 夢も希望も 平和とともに」誰もが大事にされる温かい社会を「でした。戦後80年、改めて平和や人権について、このまつりを通して考えていければと思います、4月から4回の実行委員会と事務局での話し合いを重ねながら、当日に向けての準備をしてきました。宣伝活動では、チラシの配布にもたくさんの方に協力をお願いすることができました。



第46回

埼玉障害者まつりを終えて

第46回埼玉障害者まつり実行委員会

事務局長 若山 健太

前日は雨が強く降る時間もあり、ヒヤヒヤする気持ちを抑えながら、空を見上げていましたが、当日は朝から晴天にも恵まれ、日中は少し汗ばむほどの陽気となりました。1日を通して多くの来場者があり、なんと3500人の方に参加していただくことができました。模擬店にも30以上の団体から出店をいただき、買い物をする方などで、屋内外どちらもとても賑わっていました。また、「ガイドヘルパー体験」・「指筆体験」・「ネイル体験」などたくさん体験コーナーが充実していました。

屋内外に設けられた2つのステージでは、車椅子ダンス・太鼓・バンド・ベリーダンス・歌声喫茶などの幅広い発表に、会場は大いに盛り上がり、お昼の「みちのくプロレス」のリングの周りでは大歓声が上がっていました。



シンポジウムは「戦後80年、私たちのこれからを考える（夢・希望をもてる社会へ）」と題して開催されました。会場オンライン合わせて80名近くの方が参加されていました。伊藤千尋さんの講演、そして、シンポジストの方からの憲法9条や25条にかかわる平和と人権の取り組みに、熱い議論が交わされ、改めて、戦争の悲惨さと、今も残る障害のある方への人権侵害の問題について考える時間となりました。



私は県内の特別支援学校で教員をしています。会場には、家族と参加していた子どもたちの姿がありました。声をかけると、嬉しそうな笑顔が返ってきました。まつりを思いっきり楽しんでくれていることが伝わってきました。

第46回埼玉障害者まつりの開催にあたっては、本当に多くの方のご協力をいただきました。朝早くから要員やボランティアとして、当日も多くの方が参加されていました。当日カンパも大変ありがたかったです。この場を借りて感謝を申し上げます。先日、最終の事務局会議を開き、今年の総括を行うとともに、来年の開催に向けて日程等を話し合いました。詳細が決まりましたら、また皆様にお伝えしたいと思います。

来年も埼玉障害者まつりをよろしくお願いいたします！

● 埼玉障害者まつり ●

～スポーツレクリエーションの様子～

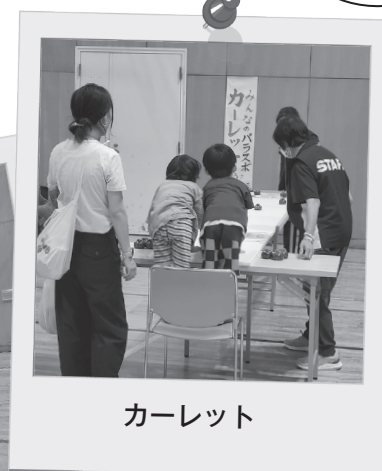
どのコーナーもたくさんの方で賑わいましたが、中でも、今年度導入した「カーレット」コーナーは、一番人気でした♪



カローリング



ハンドアーチェリー



カーレット



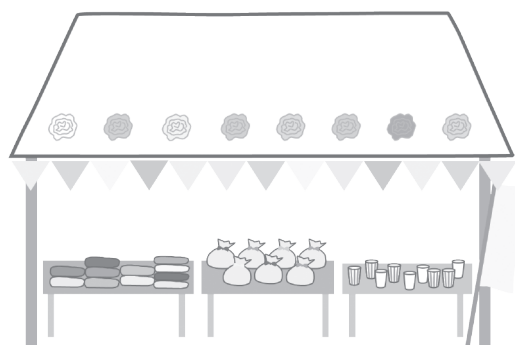
ボッチャ

埼玉障害者まつり

団体交流室バザー

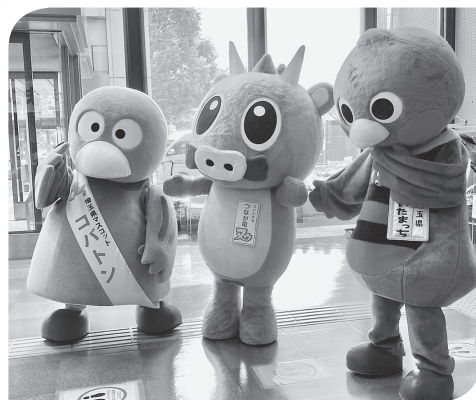
しみず
清水 順子

団体交流室（障害者支援団体が集まる事務所）の20年物冷蔵庫
庫買い替え資金調達のため、バ
ザーの開催を計画。不安をよそ
に関係者の皆様の協力で多数の
品物が集まりました。

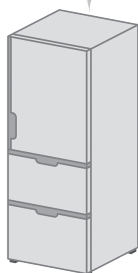


開催にあたって1週間前に値
付け作業、まつり当日は4台の
テーブル、ラック等に種々雑多
の商品を並べ来場者を待つこと
に。

販売は初めての人ばかり、更
なる不安と期待の中、複雑な気
持ちでの開店でした。売り場は
バザー独特の雰囲気があり、立
ち寄る人、横目で通り過ぎる人、
何度も往復する人など様々。
そんな中、呼び込みが不慣れ
な店員を相手に笑顔で「エッ10
円」「エッ50円」などと驚きの
声と共に、お買い上げ下さいま
した。店員側もお客様の笑顔に
勇気もらい、会話を楽しみな
がら売り込みができるようにな
っていました。



結果、小物は殆ど完売、笑顔
でお買い上げ下さった方に感謝
をし、又、10円の力には感動、
そして主婦と若者の好奇心に脱
帽。埼聴協さんから、だんごの
売上金の寄付もあり、ほぼ満足
のいく結果を得ることができま
した。スタッフの皆様お疲れさ
までした。そして、有意義な一
日をありがとうございました。



東京2025デフリンピック

— きこえない・きこえにくい人の世界最高峰の祭典 —

一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会 おかの 岡野 としあき 敏昭



〈デフリンピック開会式の様子〉

2025年11月15日から26日までの12日間、東京・静岡・福島を会場に第25回デフリンピック競技大会が開催されました。日本は合計51個のメダル（金16・銀12・銅13）を獲得しました。

また、本大会はオリンピック・パラリンピックの運営体制とは異なり、きこえない当事者が中心となった運営委員会による準備をはじめ、多くのボランティアの参加、サインエールの開発、各分野での啓発活動など、これまでに類を見ない特別な大会となりました。

デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトの結成

2018年6月に開催された第66回全国ろうあ者大会 in 大阪では、デフリンピック日本招致に関する特別決議が採択されました。続いて、2022年9月の国際ろう者スポーツ委員会（ICSD）総会にて、2025年デフリンピックの開催地が東京に正式決定しました。

開催決定は大変喜ばしいことでしたが、一方で、デフリンピックはパラリンピックより歴史が長いにもかかわらず、認知度はわずか11.2%と低く、この状況で大会を迎えられるのかという不安もありました。

そこで当協会では、デフリンピックの認知度向上やデフアスリート、そしてきこえない・きこえにくい人への理解啓発、施設の環境整備の推進などに取り組むため、2023年9月に「デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクト」を結成しました。

その際、「共生社会と協働」に関する記事を読み、きこえない・きこえにくい人と手話関係者の垣根を越えた取り組みの必要性を強く感じました。埼玉県スポーツ振興課、富士見市、三芳町に相談を持ちかけたところ、プロジェクトメンバーとして参加していただき、さらに2025年度からは民間企業である埼玉りそな銀行にも加わっていただきました。

これらの連携を通して、きこえない・きこえにくい人と共に目標を達成していく「協働」の姿勢が徐々に根づいてきたのではないかと感じています。

デフリンピックの啓発活動

デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクト結成後、まず啓発資料としてパネルやチラシを制作し、各種イベントやスポーツ大会で展示活動を行いました。また、地域の聴覚障害者協会への支援、埼玉県内63市町村首長による手話言語での応援メッセージリレーの展開、啓発動画の制作と無償配布も実施しました。

さらに、三井不動産商業マネジメントを訪問し、ららぽーと富士見でデフリンピック応援イベントを開催したほか、埼玉りそな銀行にも働きかけ、りそなコエドテラス（川越市）で応援イベントと壮行会の開催につなげるなど、さまざまな啓発活動を積極的に展開してきました。

これらの取り組みを通して、デフリンピックの認知向上だけでなく、手話言語やきこえない・きこえにくい人への理解促進にも力を入れてきました。こうした積み重ねが、東京2025デフリンピックの盛り上がりにもつながったのではないかと感じています。

誰もが活躍できる更なる共生社会に向けて

東京2025デフリンピックの観客数は、当初目標としていた10万人を大きく上回り、約28万人に達しました。ニュースや新聞などでも大きく取り上げられ、多くの観客から次のような声が寄せられました。

「きこえない人と初めて話した。」

「普段のスポーツ観戦は爆音があるが、デフリンピックは静かだった。しかし、手話言語やサインエールでの応援が印象的で、いつもとは違う応援スタイルに感動した。」

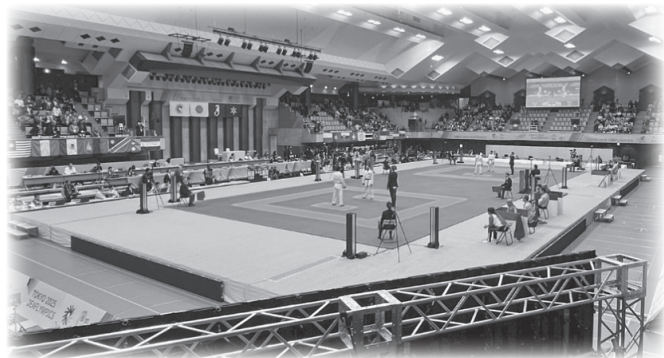
「大型ビジョンに音の情報が表示され、目で見て分かるようになっており、誰もが観戦しやすい環境に感動した。」

「手話ができない自分は少し寂しさを感じた。きこえない人はもっと寂しい思いをしてきたのだろうと実感した。」

「きこえない人もきこえる人も、同じスポーツを楽しめるのだと感じた。」

このように、多くの人々が、きこえない・きこえにくい人やろう者の生活スタイル、そしてデフスポーツへの理解を深める機会となりました。デフリンピック気運醸成埼玉プロジェクトの活動が大きな意義を持っていたことを改めて感じています。

一方で、今大会やプロジェクト活動において、「ろう者の視点が十分に反映されていなかった」など、いくつかの課題も明らかになりました。これらの課題を真摯に受け止め、改善につなげていくことで、さらなる共生社会の実現へと確実に近づいていけると考えています。



〈空手競技の様子〉



〈ストレッチの様子〉

前回のこのイベント「リラックススポーツを楽しむⅠ」に参加して、これなら続けられる！と誓ってから早1年。いつの間にか元の生活に戻ってしまった自分を反省しての参加でした。ユーモアあふれるスポーツ指導員の吉井先生ご指導の下、まずはストレッチから。

手のひら合わせ、身体を左右に、足上げ、かかと上げ、どれも座ってできる軽度な運動ですが、これだけでうっすら汗をかき驚きました。今回のメインはヨガの呼吸と動きです。大きくゆつくりと、更にお腹を引き締めながら続けるのは初心者には苦しい動きです。苦しかったけれど、肩回りや背筋が心地良く伸びた感じがしました。体幹を鍛える動きでは体がぐらぐらしてしまいましたが、転倒予防には必要なトレーニングと実感。今日のメニューのほんの少しずつでも、毎日ではなくても、無理のないくり返しをしようと思えました。

体も心もリラックス！

さいたまけんこうげんどうとも
埼玉県膠原病友の会

かい いしがき みえこ
石垣 美枝子

さて、第二部はお待ちかねカーレットです。ストーンもハウスムもオリンピックで見たカーリングのミニチュアで、この大きな障害を持つていても手軽に楽しめるスポーツだと思っていたら大間違い！フロアマットの上には薄い布が張られているのです。滑りを良くするシートとのことですが、私は力加減が分からないので滑り止めの布のように感じました。皆、手探りでストーンを滑らせてみましたが、もちろん思い通りには動きません。でも、二人一組で赤チーム対青チームの対戦が始まると気分も盛り上がり、ストーンが良い位置で止まったり、相手のストーンをハウスから突き出したりますと拍手が起きました。左右のクッション棒にわざとストーンを当てて進路の角度を変える技は、カーレットならではのものです。偶然ではなくこれらのスキルを使って競技できれば更に楽しいだろうと思います。



ジムやパーソナルトレーニングは効果が大きけれど、このように少々のハンディーを持つ皆さんと笑いながら声を掛けながらするスポーツは格別で、心のストレッチもできました。二時間弱のイベントではありましたが、初めての経験を色々楽しむことができました。準備やサポートをして頂いたスタッフの皆様には感謝致します。



〈カーレット体験の様子〉

伊豆潮風館について

（一泊研修旅行）

日本オストミー協会埼玉県支部

葛西

誠



障害者とその家族の保養・宿泊施設、埼玉県伊豆潮風館の廃止が検討されているようです。

オストミー協会埼玉県支部では、入浴マナー研修・ストーマケア情報交換、親睦の為、1泊研修旅行に利用しています。今年も10月14日・15日、24名の参加者で実施しました。



一泊研修旅行に参加して

さいたま新都心から首都高速で、池袋・新宿を通過して東名高速道路に入り、海老名サービスエリアへと向かい、バス車内では自己紹介を通じて和やかな雰囲気になりました。

海老名での休憩後、東名高速道から伊豆縦貫道へと進み、昼食場所である伊豆フルーツパークへ、昼食は、桜海老釜飯、アジフライ、うどん鍋と豪華なメニューで、皆さん美味しいと絶賛でした。その後、三島大社へ、周辺を各々散策しながら参拝後、「伊豆潮風館」を目指しました。

到着後は、各人の部屋に入り、温泉の大きなお風呂での入浴経験、広々とした浴場で伊豆の海と山の景色を堪能して、オストミーの入浴マナーを守り、皆さんと温泉を心底楽しめました。入浴体験後は、浴衣や軽装で気楽な雰囲気での交流会、美味しい食事や、色々なお酒をいただきながら、色々な話題と、カラオケを楽しみ、2次会のカラオケルーム、3次会の幹事部屋での懇談と夜中の12時ころまで酒宴は続きました。

翌朝は、各人各様で過ごし、8時朝食、9時に出発、2日目のイベントであるミカン狩りに向かいました。ミカン園では、当初ミカン狩りを行う予定でしたが、昨夜の雨の影響で収穫済みのミカンを試食することになり、取り立てのミカンの味を満喫しました。

昼食会場、小田原鈴廣を目指して伊豆スカイラインを通過して小田原に、昼食は金目鯛の炙り



ご飯、おでん、蒲鉾などが並び、おいしくいただきました。

海老名サービスエリアで、最後の休憩とお土産購入、車内では、研修に参加しての感想や今までの旅行などでの思い出話の披露などがありました。

帰路はスムーズに通行し、予定より早くさいたま新都心駅バスターミナルに到着、何事もなく自宅までの帰路につきました。



令和7年度 みんな幸せ・共生社会 県民のつどい開催報告



NPO法人埼玉県障害者協議会
郷古 珠美



令和7年度年度障害者週間記念事業「みんな幸せ・共生社会県民のつどい」が11月22日(土)、蓮田市の「蓮田市総合文化会館ハストピア」にて開催されました。

この事業は、障害者に対する県民の理解を深め、共生の心を育む地域づくりを推進することを目的として毎年開催されています。

式典では令和7年度「心の輪を広げる体験作文」・「障害者週間記念ポスター」の入賞者への賞状授与の他、式典後には蓮田市立蓮田南中学校教諭、秦優人氏の講演「15%―多様性社会を支える次世代の力」、東京2020パラリンピック車椅子バスケットボールの銀メダリスト藤澤潔氏の講演「―夢を歩むということ―」が開催さ

れました。

ステージ発表では蓮田市近隣の特別支援学校・小中学校の生徒たちによる吹奏楽、合唱、鼓笛演奏の他、学校紹介の動画も上映され、最後は県立宮代高等学校と県立春日部特別支援学校宮代分校合同による圧倒的な書道パフォーマンス「咲き誇れ自分らしく」で締めくくられました。



〈書道パフォーマンスの様子〉

また、会場ホールの前では障害者週間ポスター受賞作品の展示が、多目的ルームには特別支援学校・特別支援学級作品の絵画や工作作品の展示、公募された障害者絵画展がありました。

工夫を凝らされた作品群は来場された方の目を楽しませていました。

＜賛助会員募集のコーナー＞



私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています

晃新印刷

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山2-23-25
電話 048-887-8006 FAX 048-887-3444

＜賛助会員加入のお願い＞

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。

賛助会員には年8回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。

賛助会員の会費は、年一口2,000円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

＜郵便振替＞【口座番号】00130-9-673233

【口座名称】特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会

編集後記



今年度から障害者交流センター文化芸術担当に配属されました小原と申します。生まれも育ちも埼玉県さいたま市です。障害者交流センター近くの幼稚園に通っており、小学生の頃には、写生会で何度か来ていました。大人になってこの場所で働くことになり、感慨深いなと思うところです。不慣れなところもあると思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。

〈小原〉